

1 掘削の標準寸法

基礎工300mmの場合

項 目	A5	A51	A5G	A3	A31	A32	A2	A1
掘 削 幅	2.2	2.2	2.2	2.5	2.5	2.5	2.6	3.0
掘削長さ	4.2	4.9	3.3	4.2	4.9	5.6	5.2	6.3
掘削深さ	2.4+H	2.4+H	2.4+H	2.4+H	2.4+H	2.4+H	2.5+H	2.5+H

算定式 掘 削 幅 = $\sqrt{(\text{ブロック幅})^2 + (\text{ブロック長})^2} + 600\text{mm}$

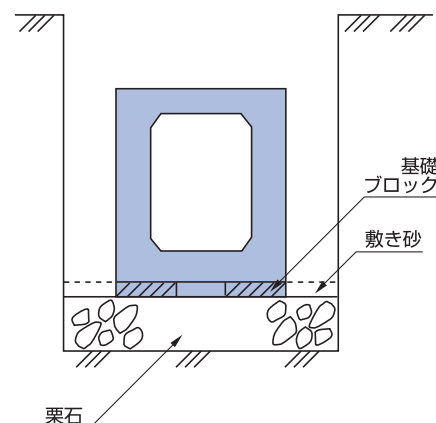
掘削長さ = マンホールの長さ + 1,000mm

掘削深さ = 基礎の深さ + マンホールの高さ + 土かぶり (H)

※ダクトスリーブ付きの場合は、掘削長さに配慮が必要です。

2 基礎工

掘削底部を十分に締め固めた後栗石を敷き、締め固め機で十分締め固めたのち、目潰し砂を施し、再度締め固めます。この場合の栗石の厚さは200mm以上を標準としています。この栗石基礎の上に基礎ブロックを水平になるよう敷設し、周囲は基礎ブロック高さまで敷き砂を施しこれを十分締め固めます。ただし、地盤が堅固で沈下のおそれがない場合は栗石を省略することもあります。なお、現場で基礎コンクリートを打設する場合は基礎ブロックを使用する必要はありません。



3 据付工

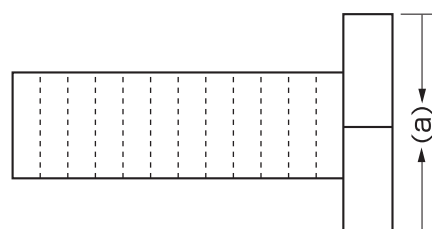
3-1. 本体ブロックの据付

- (1) ブロックの吊込みはトラッククレーンまたはラフタークレーンを使用する。
- (2) 中央部のブロックを最初に吊込み、これを規定の位置に据付ける。
- (3) 隣接するブロックを吊込み、M22のボルトで締め付ける。ボルトの締め付けはM22用のスパナ等を用い、4箇所の継手部を同時または対角線上の2箇所を同時に締め付ける。
なお、ブロックとブロックの目地間隔が5mmになるまで締め付ける。
- (4) 反対側に隣接するブロックを吊込み、ボルトで締める。以上隣接するブロックを交互に締め付ける。

※ 工具寸法

単位：(mm)

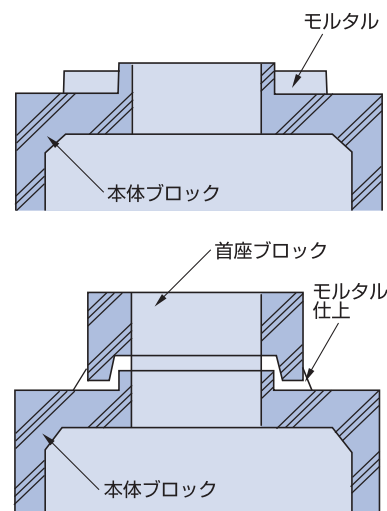
呼び径	ボックス、スパナa
M12	19
M16	24
M20	30
M22	32



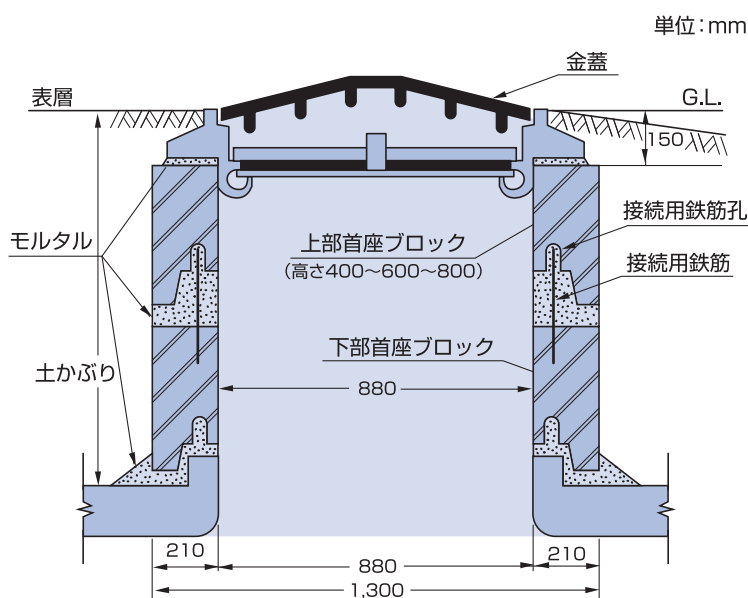
3 据付工

3-2. 首座ブロックの据付

- (1) 本体の首座ブロック据付け位置にモルタルを約30mmの厚さで敷き、首座ブロックを水平に敷設します。
- (2) 首座ブロックを土かぶりに合せて段積みする場合は首座ブロック上面の接続鉄筋に段積みする首座ブロックを差し込み、切込部にモルタルをつめ込みます。なお、最上部の接続鉄筋は切断します。
- (3) 金蓋の取り付けは、首座ブロックの上部にモルタルを路面勾配に合うように敷き取り付けます。



首座ブロックと金蓋の組合わせ図



3-3. 内装仕上

- (1) 本体ブロックおよび首座ブロックの接合面およびボルトボックス部のゴミやレイタンス等を取り除き、きれいに清掃します。
- (2) 接合面およびボルトボックス部のコンクリートには十分水を吸収させ湿潤状態にします。
- (3) ボルトボックス部は高性能無収縮モルタルで充填し内面と平滑となるように仕上げます。
又、本体ブロック接合面は高性能無収縮モルタルで内部までゆきわたるように仕上げます。

注1) マンホール等を植栽部などに設置する場合には、外側上面および側面の接合面にも高性能無収縮モルタル等で仕上げてください。

注2) 上部のボルトボックスの充填、上面コーキングを行う場合、高性能無収縮モルタルはできるだけ固練りで仕上げます。

※ 高性能無収縮モルタルは水を加えるだけでモルタルとして使用できます。

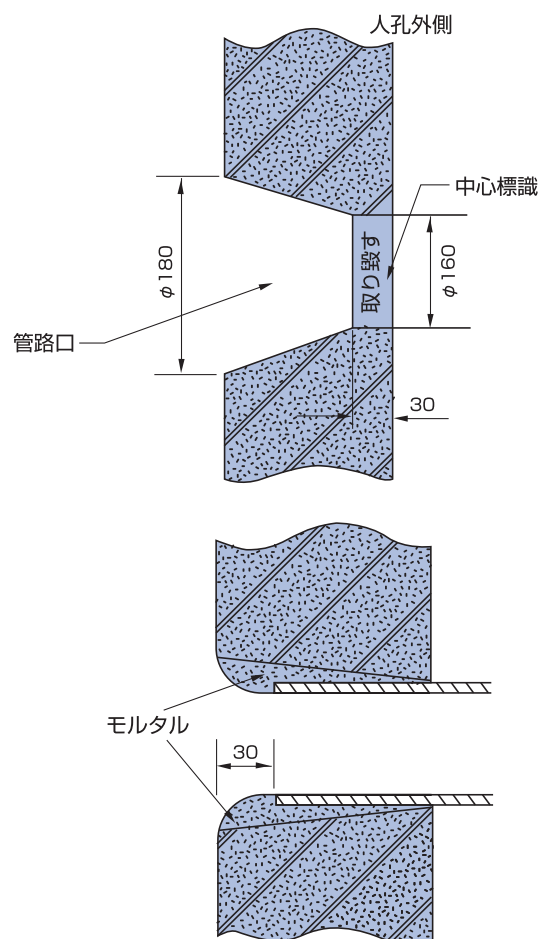
4 管路の取付け

4-1. 管路口の孔あけ

管路口は右図のような形状になっているので管路を接続する孔のみ、コンクリートを外側からハンマー等でハツリます。なお、ハツルときは周囲に悪影響をあたえないように注意してください。

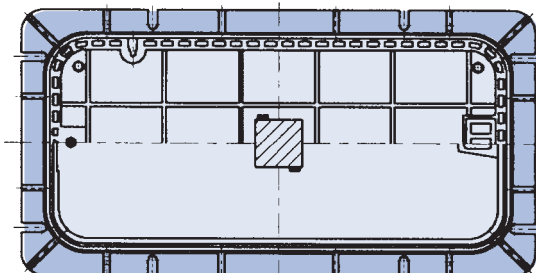
4-2. 管路口の仕上

コンクリート壁を水でしめして湿潤にし、壁と管路の隙間にモルタルを十分詰めてコーキングします。さらに管路口は、なめらかな円弧をつけて仕上げます。

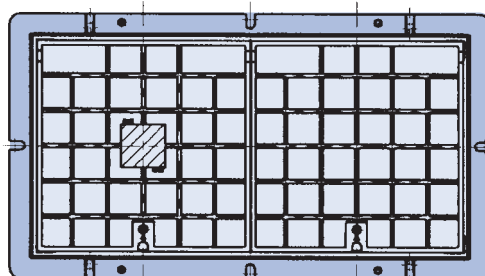


● プレハブマンホール関連商品 (取扱商品)

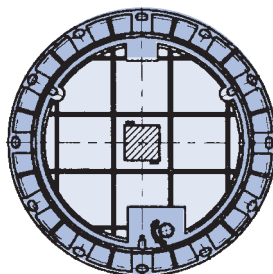
1 鉄 蓋



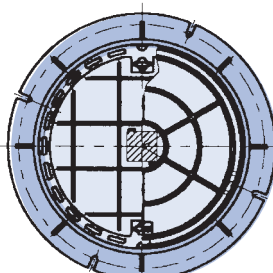
500×1200、600×1200



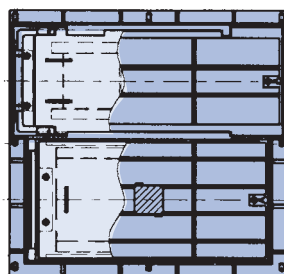
600×1200



φ750、φ700、φ600



φ870



1000×1000将来機器用



A series of horizontal lines for writing, consisting of a solid top line, a dashed midline, and a solid bottom line. This pattern repeats down the page, with a final solid blue line at the bottom.